

看護師から説明！

二の丸がんサロン について



田中 富美子
たなか とみこ
看護師

がん相談支援室

二の丸がんサロンのご案内

がん患者さまやご家族が心の悩みや体験等を自由に語れる場としてがんサロンや患者会があります。

熊本県内にも各地域に30近くのがんサロンがありますが、熊本医療センターで開催される二の丸がんサロンもその一つです。

二の丸がんサロンには、世話人と呼ばれる代表の方がおられ、世話人が中心になって運営されています。

開催日時：毎月第1金曜日13時から15時開催。

場 所：熊本医療センター
2階 研修センター

会 費：無料

年間計画の中には、自由に語る場以外に、がん関連の様々な講話も開かれています。

二の丸がんサロンのお約束

- 1 感謝の気持ちを忘れずに参加しましょう。
- 2 特に使ってはいけない言葉は決められていませんが、相手の立場・状況を考えてお話ししましょう。
- 3 サロンでは理由なく人の話を遮ったり、否定・批判したりせず、お互いの違いを認め合いましょう。

- 4 お名前は、名乗っても、名乗らなくても、ニックネームでも大丈夫です。
- 5 参加者のプライバシーを守るため、サロンの様子を撮影・録画・録音したり、サロンで話された内容をSNS等に掲載、口外しないようにしましょう。気になることがあるときは、是非次回のサロンで話しましょう。
- 6 サロンでの健康食品等の広告宣伝や販売などの活動、その他の勧誘等は禁止します。

個人情報を守られ、匿名での参加も可能です。がんと診断された方、そのご家族でなければわからない気持ちもあると思います。一度、参加してみませんか。



二の丸がんサロンへの参加ご希望の方や興味を持たれた方は、がん相談支援センターまでお問い合わせください。

お問い合わせ先

国立病院機構熊本医療センター 4階10番受付
がん相談支援センター

電 話：096-353-6501

(「がんサロンについて相談があります」とお伝えください)



くす通信

第271号
2023年9月1日

国立病院機構熊本医療センター 発行

緩和ケア科より

「ゆるなごの医療」のすすめ

がん相談支援室より

二の丸がんサロンについて



「くす(樟)」の由来について

くす(樟)は常緑の広葉樹で、熊本城内に多く見られます。種々の精油成分を含み、良い香りがします。樟脳をはじめ色々な薬用成分が抽出されるなど有用な薬用樹でもあります。また、くすし(薬師)とは、医師のことを指し、くすしぶみ(薬師書)は医療に関する書物のことを言います。本誌はこの「くす」にあやかり、健康な生活を送るために情報を提供しております。お気軽にお読み下さい。

「ゆるなごの医療」 のすすめ

緩和ケア科部長
緩和ケアセンター長
いそべ ひろたか
儀部 博隆



「ゆるなごの医療」という言葉を聞いたことはありますか？初めての方が多いいと思います。何か怪しげ？いいえ、がん診療では欠かせない医療であり、決してあやしいものではありません。この誌面では「ゆるなごの医療」に関してご紹介いたします。

がんと診断されたとき、どう感じるのでしょうか。治るのか？どれくらい生きることができるのだろうか？また治療法、費用、仕事、家族のことなど、誰もが自身の置かれた状況について真剣に考えることでしょう。がん疾患はその治療法が模索され進歩していますが、大腸がんなどの固形癌は、原発巣以外の場所に拡がって手術で取り去ることができない場合には、最新のがん治療をもってしても現在の医療では、残念ながら治ることはありません。人間の知恵をはるかに上回るがん細胞機能が、治癒を拒んでいます。進行がんの治療目的は病状の進行を遅らせることであり、うまく付き合っていくことが求められます。診断を受けた時に生じる心の動揺や将来への不安は、深刻な疾患であり続けるこの病気の特徴なのです。従ってがんの診断を受けた時から、その疾患によってもたらされるつらい症状やつらい気持ちを少しでも和らげながら、体と心のバランスを保っていく

ことが肝要になります。その為の医療を「ゆるなごの医療」と称しています。「ゆるなご」とはゆる～くなごやか～にという意味です。実際に「ゆるなごの医療」をがん治療と一緒に受けた場合には、受けない場合に比べて、より長く生きることが証明されています。その一つの理由は、がん疾患がさらに進行した際に、ぎりぎりの状態までがん治療を受けなかったからなのです。え？がん治療を受けないと長生きする？治療を受けないと長生きできないでしょう？この結果が示していることは、実はそうではないようです。それは実際の臨床の場でも観察されることです。無理をすると命の時間は短くなり、無理をしないと延びるようなのです。正確に言えば延びるのではなく、がん疾患としての寿命を全うできるということです。がん治療は基本的に体にとって有害であり健康のバランスに影響を与えます。ぎりぎりの状態ではがん治療による併発症が命取りになることがあるのです。「ゆるなごの医療」を受けている場合には、自分の病状を客観的に眺め自律性を保つ場を持つことができることで、限界を超えたがん治療を回避することができるのかもしれませんが。従って「ゆるなごの医療」は、がん治療と共に受けていくことが勧められます。ところでそんな魔法みたいな医療がほんまにあるんかいな？って思われますか。「ゆるなごの医療」は、緩く和やかな医療、そう世間では「緩和ケア」と呼ばれています。「カンワ」んーなんかクールすぎ、「ゆるなご」でいきましょうよ。

緩和ケア科の紹介 （「ゆるなごの医療」の担当科）

当院では以下の取り組みを行っています。

● 自宅で生活している方へ

外来通院の方に、緩和ケア外来を開設しています（各がん治療科と併診）。

自宅生活中に体調変化があり緊急で入院が必要になる方に、緊急緩和ケア病床（短期間利用のみ）を準備しています。

● 入院利用の方へ

緩和ケアチーム診療を提供します。緩和ケア看護師と緩和ケア医が中心になり多職種で対応します（体のつらさをやわらげる、気持ちの面のサポート、薬剤支援、口腔ケア、社会面のサポートなど）。

緩和ケア病棟を持つ病院や在宅診療への診療連携を行います。

早急に自宅退院を行うことが必要な方に、訪問診療を導入し在宅定期診療へ連携します（準備中）。

国立病院機構熊本医療センター

- 診察日 月曜日～金曜日
- 休診日 土・日曜日及び祝日
年末年始（12月29日～翌年1月3日）
- 受付時間 8：15～11：00
〒860-0008 熊本市中央区二の丸1-5
TEL 096(353)6501(代表)
FAX 096(325)2519
H P <https://kumamoto.hosp.go.jp/>

※ 形成外科のみ受付は、水曜日以外の13：30～16：30となります。

※ 一部の科では、午後に予約診療を行っていますが、新患、予約のない方の午後診療は行っておりません。急患はいつでも受診できます。